

# 弘法さんかわら版

発行編集部

大塚耕平事務所

☎052-757-1955

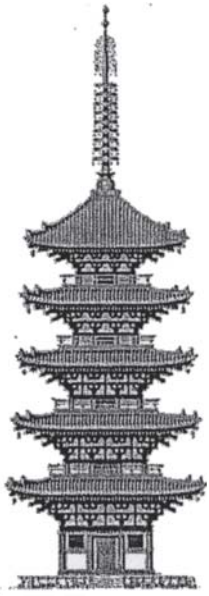
Kouhei@oh-kouhei.org

皆さん、こんにちは。新緑がまぶしい季節になりました。さて、**お釈迦様の生涯**をお伝えしている今年のかわら版。今月は「いよいよお釈迦様が**悟りの境地**に達します。」

## ★中道(ちゅうどう)

**五人の沙門**と一緒に修行した**ラークボーティ**、**前正覚山(ぜんしょうざん)**、**ぜらんしょうがくさん**での修行は六年に及びました。**断食**が中心。一日に穀物一粒だけを食べて瞑想を続けたお釈迦様。

やがて骨と皮だけの瘦せたかやだになり、五人の沙門はお釈迦様が死んでしまったと思つた。ところが何度もあったそうです。しかし、お釈迦様は「苦行では悟りを得ることはできない」と感得し、やがて山を下ります。それを知った五人の沙門は「**シッダールタ**(お釈迦様)は墮落



して修行を止めた」と非難しましたが、それは違います。お釈迦様は、王子時代の**快樂**に満ちた生活からも、身を滅ぼ



お釈迦様に乳粥を差し出す村の娘スジャーター

すような**苦行**からも、悟りの境には得られないと気づき、**中道**の大切さを理解したのです。

## ★スジャーター

下山したお釈迦様は、ふもとの**ナイランジャーナ**河(尼連禪河)に**れんぜんが**で身を清め、からだを癒しました。

その姿を、**スジャーター**という名前の里の娘が見ていました。スジャーターはお釈迦様の神々しさに思わず手を合わせて拝みました。

スジャーターは持っていた**乳粥(ちちがゆ)**をお釈迦様に差し出しました。お釈迦様はこの乳粥をありがたく頂戴し、体力を回復したそうです。やがて、お釈迦様は近くにあって**アシヴァッタ**という大きな樹の下に行き、坐禅を組んで瞑想を始めました。

## ★三十五歳の十二月八日

瞑想に入ったお釈迦様は人間や自然や宇宙の本質について沈黙考。瞑想の中でお釈迦様は自らの欲望や葛藤と戦い、やがてそれを制御する力に身につけたそうです。

アシヴァッタの下で坐禅を始めて七日目、**明けの明星**が輝く時刻に、お釈迦様はついに万物の真理を悟り、**ブッダ**となりました。時に**お釈迦様三十五歳の十二月八日**です。

ブッダとは**サンスクリット語**で「**目覚める**」という意味。目覚めた真理の王ということから「**覚王**」がお釈迦様の別名となります。

また、悟りのことは**サンスクリット語**で「**菩提(ぼだい)**」と書きま

めに、**アシヴァッタ**の樹は「**菩提樹**」と呼ばれるようになりました。

## ★ブッダは仏陀

真理に目覚めた人は皆ブッダです。お釈迦様から始まった**仏教**は、誰もがブッダを目指す教えと言えます。お釈迦様ではなくても、誰もが悟りを開いてブッダになれるのが**仏教**です。もちろん、そのためには深く自分の内面を見つめ、自らの欲望や葛藤を制御するために熟考しなくてはなりません。ブッダという言葉は中国に伝わって漢字で「**仏陀**」と記されました。「**陀**」を省略すると「**仏**」。それを訓読みして日本では「**ほとけ**」と言われるようになりました。

## ★弟子の誕生

お釈迦様が悟りを開いた十二月八日には**成道会(じょうどうえ)**を開いてお寺でお祝いします。成道は**成仏得道(じょうぶつとくどう)**の略。悟りを開いて**仏陀**になることを意味します。**弘法大師**が悟りを開いた時も**明けの明星**が口に飛び込んだと言います。ここでもお釈迦様と共通点がありますね。来月はお釈迦様が悟りの境地を説法して**弟子**が誕生します。乞ご期待。